

1面からのつづき

●●銀 章●●●

埼玉県桶川市

黒須美千子



善行銀章の栄、嬉しくお礼申し上げます。
「人は見ている」を信条に自分出来る社会参加は、ホームに向き入浴のお手伝いでした。それには家族の理解と応援があったから続けられました。回を重ねる毎に、入居者様から「あなたなら

大丈夫」と嬉しい信用を得、何よりの喜びでしたが、主人の転勤で続ける事はできませんでした。数十年の時間が過ぎた今施設の人が覚えていて下さり、私の行動が次につながっています。嬉しい事です。

また、東日本大震災、台風災害と次から次と心が痛みました。コロナ禍のマスク生活、戯言の出来ない辛い時でした。今自分の人生まとめの時となりましたが、一生懸命生きていれば、人は見ておられます。花は咲きます。大きな花、小さな花、それぞれ世の中に咲かせてと願う日々です。末筆ながら役員様、会員様の御多幸、御健康を祈っております。感謝

支部だより

群馬県前橋支部

交流団体と久方ぶりの郊外・清掃奉仕活動の実施

コロナウィルス感染症の為、多くの善行会活動ができなない情勢で各種事業が停滞し奉仕活動のやる気が妨げられていました。

当地もようやく、感染症対策を心掛け、四月二十九日昭和の日の早朝、前橋市公園広場で、主管の前橋東ロータリークラブ、地元私学の共愛学園はインターアクトクラブの女子学生さんと



ち、ガールスカウトクラブの有志の方たちと当支部有志との 四団体、百余名でさわやかな新緑の公園の清掃奉仕に心地よい汗を流し、連休前のひと時の活動をしました。この清掃奉仕活動を契機に善行会活動の活性化が推進されることを願い、参加者全員終了後の集合写真を添付して報告をします。

●●銀 章●●●

善行銀章を受賞して

宮城県涌谷町

小野 秀一



この度、思いがけず、善行銀章を賜り心から御礼申し上げます。地域貢献で銅章をいただいたのがつい先日のように思えます。町の行政支援とともに福祉活動、老人クラブ活動、防災支援活動、そして地域のまとめ役各種ボランティア活動

を始めて早や十五年を過ぎようとしております。六十歳で現役を引退し、地域のために働こうと決心したのがつい最近のように思えます。コロナ禍の中、三年間は満足のいくイベント等は出来ず苦しい時期を過ごしてまいりました。高齢ともなり、昨今の福祉の複雑さ厳しさを身を感じている一人でもあります。組織をまとめられるリーダーになる人が少ない中、後継者をみつけ、指導する事も大変です。これも私に課せられた宿命と思ひ頑張っております。地域の皆様と協力してこれらの活動を盛り上げる為にも、健康に注意して今後も頑張るつもりでおります。終わりに日本善行会のますますの発展をお祈り申し上げます。

新会員名簿(敬称略)

(宮城県支部) 阿部澄江、千葉初子、渡部正春(仙台支部) 大川満千子、那須正行(栃木県南支部) 小口つね子、谷田貝芳子、入江悠策、山中睦夫、(群馬県北毛支部) 新井良光、小田橋春吉、金井久治、斉藤益生、佐藤浩下田晶子、南雲富士夫、根井秀男、諸田孝、山村誠(渋谷支部) 中村寿徳(北区支部) 小川孝(葛飾支部) 會田勝康、今井ルミ子、岩田敦子、清水

孝吉、田牧邦江(山梨県甲府支部) 永田友美(福井県支部) 上坂弥寿子(愛知県支部) 鳥越進、渡邊みづ系(愛知県名古屋支部) 伊藤由美、坂野武司、竹内良子、土屋由美子(福岡県福岡支部) 羽根正俊(福岡県筑後支部) 推窓和彦、長瀬憲治(熊本県宇土支部) 上田桂子(沖縄県支部) 知念範紺

去る五月二十七日、日本善行会元理事の西田誠氏(八十五歳)がご逝去されました。西田氏は、平成十五年に福岡県福岡支部を設立し、平成十九年まで支部長として、会員増強と支部運営に尽力しました。平成十六年から日本善行会理事として、同二十六年まで、日本善行会の発展に多大の貢献をされました。ここに謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

計報

入会のおさそい

一般社団法人日本善行会では、善行の表彰並びに善行精神の普及と実践を通じ明るく住みよい社会環境づくりに努めております。活動をご支援いただくために、広く会員をおさそい下さい。

- 会員の種類
- ①普通会員(正会員)
 - 個人 年額 五千元
 - 法人 年額 一万元
 - ②特別会員(正会員)
 - 個人 年額 一万元
 - 法人 年額 三万円
 - ③賛助会員
 - 個人 年額 千円以上
- ※明るいニユース年間購読料五百円含む

大分県大分支部

スーパージョランテア 尾畑春夫さんの近況！急に消えた尾畑さん？

十二月十七日、久しぶりに大分支部名誉会員尾畑春夫さんと高崎山の麓「田ノ浦ビーチ」で会う事が出来ました。この日は特に寒さが厳しく強い風が吹く中、八十二歳になった尾畑さんは単車で四十分かけて来てくれました。ほころぶ笑顔と声のデカさは相変わらずでした。健康そのものです。ちなみに健康保険は十七年間使っていないそうです。(記録更新中)。

尾畑さんの話題といえ

ば東京の小学校で講演後、大分まで歩いて帰る様子が連日放映されていたが、愛知県の手前で突然尾畑さんが消えてしましました。お聞きしたら、テレビで尾畑さんの歩くコースが紹介されるので、百人、二百人の住民の方々が待ち構えるようになったそうです。警察車両や警察官が警備にあたることになり、事故でも起きたら大変ご迷惑になると思い息子の車でこっそり大分県に帰ったそうです。あのまま歩き続け山口県に入ったらもっと大変なことになると思ったそうです。

三年前、二歳児藤本理稀(よしき)ちゃん六十八時間奇跡の救出

劇”で尾畑さんは多くの国民に感動と勇気を与え、ましてや山口県民の思いは格別なものだったでしょう。突然何も告げずに消えたのは申し訳なかったが、このことは自分自身の問題でしたから自己完結したそうです。

その後、自宅で過ごしながらジョランテア活動を行っていました。熱海市土砂災害が発生したので、支度を整え一晩中車を走らせ現地に直行しました。もちろん高速道路は使用しません。(お金

がもったいないので...)現地に着くと災害復興が始まっていたが、特に行方不明者の救出作戦の真つただ中でした。警察の方から声を掛け



られ「尾畑さん、せっかく来てくれましたが法律で土砂災害特別警戒区域の中には関係者以外は立入りできません」と丁寧に断られました。

昨年七月には日田市天瀬町の大水害では川沿いの旅館が軒並み大災害に見舞われました。尾畑さん翌日から被災地に入り床下に溜まった泥をかき

出したり災害の後片付けをする為、毎朝五時には家を出て夕方までボランティア活動を行っていました。

新たに環境美化活動

災害復興に目途がつくと尾畑さんは別府湾のペットボトルを回収する活動を始めています。尾畑さんに「何故、この活動を始めようと思いたか？」と尋ねると「テレビで絶滅危惧種ジュゴンの死骸が浜辺に漂着しており体内を調べたら胃袋の七〇%位ペットボトルが詰まっており、人間の犠牲になっている生き物を守りたい」その思いから活動を始めたそうです。

大分支部名誉会員尾畑春夫さんの崇高な善行精神と実践的評価は、衆目の一致するところで日本善行会においても貴重な存在ではないでしょうか。これからも大分支部が発信基地となり、尾畑春夫さんの活動状況を全国の仲間へ還流してまいります。